

令和6年度研究計画について

研究教科 国語科

研究主題 表現力を育てる国語科指導
～自分の考えや思いを広げる授業づくりを通して～

(1) 主題設定の理由

ア 学習指導要領から

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」には、小学校国語科の目標として、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」としている。そして、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう語彙指導、情報の扱い方、考えの形成、我が国の言語文化に関する指導などについて改善・充実を図っている。

中央教育審議会答申（平成28年12月）で「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いが関連している」との指摘があった。また、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と述べられている。

語彙は全ての教科等における資質、能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。語彙を豊かにするために、学習の中で様々な語句に触れ、日常生活の中でも使いこなせる語句を増やせるよう、学年ごとに指導事項を示している。

そして、全ての領域で、「考えの形成」に関する指導事項を位置づけ、自分の考えを形成する学習過程を重視している。

また、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動のひとつである。」という答申を受け、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結び付くよう、発達の段階に応じて、系統的に指導することが求められている。まさに、語句に着目し、語彙を豊かにする指導の充実や、考えの形成を意識した授業づくり、読書の推進が、本校の課題と関連している。

イ 学校教育目標から

心豊かでたくましく生きる児童の育成 ～笑顔いっぱい 元気いっぱい 友達いっぱい～
知・徳・体の視点から「生きる力」を育てる 進んであいさつ・そうじ・べんきょう

〈学校がめざす児童像〉	〈国語科でめざす児童像〉
○ 心豊かでたくましく生きる児童の育成	○ 国語に対する関心を高め、学ぶ楽しさを味わいながら主体的に学び合う児童の育成
・自分や友達を大切にする優しい子ども	・友達のよいところを認め、互いの考えを伝え合う子ども
・よく考え、進んで学び合う子ども	・楽しんで読書をし、国語を大切にしながら学び続ける子ども
・力いっぱい運動し、元気に遊ぶ子ども	・めあてに向かって積極的に取り組む子ども

ウ 児童の実態から

本校は、全校児童 54 名の小規模校である。由緒ある香取神宮境内の隣に位置し、緑豊かな環境で生活している。児童は素直で明るく元気であり、学校の決まりをよく守り、多くの児童が学校生活を楽しく送っている。学習面に対しては、学習内容の定着や学び方・学習意欲の面で個人差が大きく見られ、高学年になるにしたがってその傾向が顕著に表れている。令和 5 年度の千葉県標準学力検査の結果から見ると、主体的に学習に取り組む態度は 85.9%と、4 学級が県の平均を超えている。知識・技能に関しても 4 学級が県平均を超えた。これは、日々のドリル学習の成果が表れていると思われる。

一方、思考・判断・表現に関しては 66.6%の正答率となり、やや低い傾向にある。これは学年によって違いはあるが、「読むこと」や、「書くこと」での課題が起因すると考えられる。また、一つ一つの問題の意図の把握に時間がかかり、最後まで解答できなかったことも原因に挙げられる。また、数年前より児童の読書量に低下が見られる。学校図書館の利用数も減り、学習の土台となる読書の幅や質が限られている。

これらの実態から、児童が読書活動を通じて、文章に接する楽しさを味わわせていきたい。そして、多様な語句やその働き、使い方への関心を高めていけるように、日常における継続的な取り組みについて考えていきたい。また、単元においてどのような言語活動を設定し、学習活動を工夫していけば児童の考えの形成や意欲の向上につながっていけるのか、その手立てを探っていきたいと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究目標

考えの形成において、読むことと話したり書いたりすることを関連付けた学習活動や各学年での日常的な取り組みの効果について、授業実践を通じて明らかにしていく。

(3) 研究仮説

- 読むことを中心に、話すことと書くことを組み合わせた学習活動や読書活動を工夫することで、読解力、表現力そして内発的な学習意欲を高めることができるであろう。

(4) 研究内容

【国語科】

- ① 単元による言語活動や学習過程の工夫
- ② 各学年による日常的な取り組みの工夫
 - ・音読 視写 聴写 日記 言葉遊びなど
- ③ 佐原中央図書館と連携し、読書活動の充実を図る
 - ・図書の充実 並行読書 読み聞かせなど

【その他】

- ① 学習規律の確立
 - ・全職員で、「授業の8つの約束」を共通理解する。
- ② かとりっこタイム
 - ・朝の10分間のドリルタイムを効率的に進め、習熟を図る。

(5) 研究計画

〔前期〕 国語科理論研修 (4～7月)

〔後期〕 国語科授業研究 (12月)

特別支援学級授業研究会 すぎのこ学級、ひまわり学級 (1月)

(6) 研究組織

